

シリーズ：カタルーニャ問題を考える

スペイン78年体制の歪みとカタルーニャ問題

2019年10月14日、スペイン最高裁はカタルーニャ独立派幹部に対して「騒乱罪」で9年から13年の実刑判決を言い渡しました。今回はその判決内容と問題点を知り、カタルーニャ問題の背景にあるスペイン民主体制の歪みについて考える勉強会を開きます。ご関心のあるみなさまの参加を歓迎します。

日時：2020年1月21日(火) 17:30～20:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 南館4階会議室

使用言語：日本語

どなたでもご参加いただけます（事前予約不要・参加費無料）

報告1

「独立派幹部への有罪判決の問題点と住民投票の正当性」
イバン・ゴンサレス・プジョル（専修大学大学院）

報告2

「歪んでいる自治州国家体制とカタルーニャ独立問題」
永田智成（南山大学外国語学部）

コメンテーター：狐崎知己（専修大学経済学部）

司会：山道佳子（慶應義塾大学文学部）



終了後に懇親会を予定しています。懇親会への出席を希望される方は前日までにお申し込みください。お問い合わせ・懇親会申込先：山道（yoshikoy@keio.jp）